

胆振から「厚真町花卉部会」を紹介します

今回は、厚真（あつま）町花卉部会を訪ねました。2015年最初の産地レポートなので、今年の抱負なども伺いました。

なお、掲載写真は、取材日（1月）に厚真町のカーネーション栽培ハウスで撮影したものです。



カーネーションは、雪に囲まれたビニールハウスの中で栽培されていました。

◆厚真町◆

まずは、厚真町について簡単にご紹介します。厚真町は苫小牧市の東側、車で40分ほどのところにあります。新千歳空港からも車で35分ほどと、陸・海・空の交通アクセスが充実した町です。降雪量が少なく日照時間が長い温和な気候のもと、農業が営まれています。

厚真町の農業は稲作が中心で、明治の開拓期から作られてきたお米は品質が良く、「厚真米」として消費者から評価を得ています。お米の他にも、今回の主役である花をはじめ、小麦や大豆などの畑作物、各種野菜が生産されています。また、畜産農家や酪農家もいます。

（厚真町の詳細は、町のホームページやフェイスブックをご覧ください。公式キャラクター「あつまるくん」も人気です。）

◆厚真町花卉部会の活動（その1）◆

今回おじゃました厚真町花卉部会（以下、「部会」）は、活動を始めて今年で24年目。現在、会員は19戸おり、カーネーション、スプレーギク、トルコギキョウ、デルフィニウムを生産。「あつまの花」というパッケージで出荷しています。出荷する花を選ぶ作業は会員個々が行うため、部会では「あつまの花」の品質が保たれるよう、毎年、会員相互に畑を巡回し出荷基準を確認する「目慣らし会」を行ったり、各種研修会に参加するなどの活動をしています。

出荷先は、札幌をはじめとする各地の市場で、沖縄や北九州にも直接発送しています。こういった出荷先との交流も部会の大切な活動のひとつです。市場を見に行ったり、市場関係者が厚真を訪れたり、お互いの現場を見て情報交換することで、信頼関係を築いています。



手前は出荷直前のカーネーション。ハウスの中はぼかぼかでした。

◆厚真町花卉部会の活動（その2）と今年の抱負◆

こうして生産した花を消費者の皆さんが楽しんでいる姿を見ることが、生産者の一番のやりがいです。そのため部会では、花のPRやお花屋さんなどとの交流を通じて、消費者の感想や要望など生の声を聴くことを大切にしています。昨年は、2月にフラワーバレンタインのPRに併せ、新千歳空港から札幌までフラワーウォーク（※）をしました。また、7月の目慣らし会にはお花屋さんやアレンジメント教室に通う生徒さんなどを初めて招待し、普段お店で目にする姿とは違う、商品になる前の栽培中の花の姿を見てもらいながら情報交換。更に、消費者目線を養うため、農閑期には会員自らフラワーアレンジメントを習うなど、とても活発に活動しています。（※フラワーウォーク～花を周りに見えるようにして持って街を歩く取組み）

部会長の河村さんに今年の抱負を伺ったところ、使う人や見る人に喜んでもらえる花を生産するのはもちろん、お花屋さんや消費者との交流にも積極的に取り組んでいきたいとおっしゃっていました。



ハウスの中のトンネル。この中は…。(次の写真をご覧ください。)

◆終わりに◆

部会では、今回紹介したほかにも、花を活用した女子スキージャンプチームへの支援なども行っています。会員の皆さんが、花でつながる人の輪をととても大切に活動していることがわかりました。

今年は「あつまの花」を通じて、どんな人の輪がつながっていくのでしょうか。とても楽しみです。

最後に、花束を買うのはちょっと照れくさいなあ…という方に、筆者の花屋での楽しみ方をご紹介します。それは、見たことのない種類の花を見つけること。気に入った花があれば、一輪からでも購入できますので、ぜひ、お気軽に立ち寄ってみてください。もしかしたら、素敵な出会いがあるかもしれません。



トンネルの中では、昨年12月に植えられたカーネーションの苗が春を待っていました。

(平成27年1月取材 胆振総合振興局農務課)
(協力 とまこまい広域農業協同組合)